

令和6年度 第2回 与進小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年7月17日（水） 13時30分から16時00分まで
- 2 開催場所 与進小学校 多目的室①
- 3 出席委員 石津 恵也、鈴木 清久、鷹森 光代、幸田 記代子、星 貴之
鈴木 育男、中山 利彦、仲川 尚志、玉ノ木 杏里
- 4 欠席委員 小池 彰吾
- 5 オブザーバー 石井 智也（長上協働センター所長）、村田 弘貴（長上協働センター主事）
- 6 学校支援コーディネーター 竹村 祥子
- 7 学 校 杉山 行夫（校長）、影山 重広（教頭）、内田 智美（主幹教諭・CS担当）
池田 典央（生徒指導主任）、堀内 千佳代（CSディレクター）
- 8 教育委員会 井島 健蔵（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 堀内 千佳代
- 11 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、前回会議で承認された石津会長が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

- （1）前期の子供の様子から
 - ① 参観授業の感想等
 - ② 1学期のいじめ報告【生徒指導主任】
- （2）1学期の学校評価や学校運営方針の振り返り【主幹教諭】
- （3）学校支援活動【コーディネーター】
 - ① CSにおける1学期の活動報告
 - ② 今後の活動

13 会議記録

司会から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）前期の子供の様子から

① 参観授業の感想等

議長の指示により、委員に参観授業の感想を求めたところ、委員から以下の発言があった。

- ・1年生は下校していたが、1年生だけで帰宅させるのは危ないのではないか。もう1学年一緒に下校させることはできないのか。（石津会長）

⇒学年ごとに標準時数が決まっていて1年生は時数が少ない。また1年生の教員も

- 下校を見届けることは難しいので、見守り等の協力をお願いしたい。(内田主幹)
- ・子供達が外部ボランティア等いろいろな人に構えが無くなってきている。コミュニティー・スクールの成果を感じた。(鷹森委員)
 - ・冷房が効いていて自分達の子供の頃とは雲泥の差だと感じた。子供に「おじさんは与進の子応援団なの？」と聞かれ、活動が浸透していることを感じ、我々もしっかりしなくてはいけないと感じた。(中山委員)
 - ・同じ2年生でも各クラス授業内容が違うのはどうしてか？同じように進めないのか？(石津会長)
⇒各クラス時間割が決まっている。同じ学年が一斉に同じ授業をすると教材が足りなくなる。また専門性の高い授業は得意な先生が行う方が良いので、それらを考慮しながら時間割を組んでいる。(内田主幹)

② 1学期のいじめ報告

議長の指示により、池田生徒指導主任から別紙資料に基づき、1学期のいじめ報告がされ、委員より以下の発言があった。

- ・登校中けんかをしている児童を見かける。見守りボランティアを配置すれば抑止力になると思うので、見守りボランティアを募集してはどうか。(幸田委員)
⇒見守りボランティア募集に関しては、熟議すべき議題なので、別途議案としてあげてほしい。(石津議長)
- ・新聞報道でいじめ認定が3倍になったと見聞きしたがそれはどうしてか？またそれに対して学校はどのような対応をしているのか。(鈴木育男委員)
⇒浜松市全体で行ったいじめアンケートでは、タブレットを活用した調査に変わったため。小さい事案も見逃してはいけないという意識の高まりもある。(井島主事)
⇒些細なことでも事実を把握していく必要がある。重たい案件にならないよう複数で指導している。(杉山校長)
- ・いじめを理由に不登校になっている児童はどのぐらいいるのか。(星委員)
⇒いじめを理由にというのはほぼない。マニュアルを作成して対応しているので、ケアの準備は整っている。(池田生徒指導主任)
- ・問題行動を起こし授業が中断するクラスがあると聞いた。子供も不安だし、保護者も不満に思っている。学校はどういったケアをしているのか。(星委員)
⇒校長以下職員が入れかわり立ちかわりケアをしている。最近は落ち着いて良い関係になってきている。また職員のケアも必要なのでチームで対応している。いろいろな児童がいる中で勉強することは普通級の良いところなのでご理解いただきながら進めていきたい。(杉山校長)

(2) 1学期の学校評価や学校運営方針の振り返り

議長の指示により、内田主幹から、別紙資料に基づき、1学期の学校評価や学校運営方針の振り返りについての説明があり、委員より以下の発言があった。

- ・学級目標はクラスにしか掲示されていないのか？子供は何か持っているのか？(幸田委員)

⇒子供は持っていない。クラスの後ろに掲示されている。子供達はそれに向かってがんばっているのがんばりを見ていただきたい。(内田主幹)

- ・1年生の数値が高いが他学年と同じ内容で調査をしているのか。それとももっとやさしく書かれているものを使用しているのか？(石津会長)

⇒このまま使用している。初めてタブレットを使用したので1年生全クラス2～3人の教員で対応した。自己評価するのはまだ難しい歳かもしれないし、意味がわからない子供もいたかもしれない。(内田主幹)

- ・保護者の数値が低い、学校の様子は子供から聞くしかない、わからないというのが正直な回答だが、項目の中にわからないという項目が無かった。保護者の数値を上げたいのならば、ボランティア等学校に関わる機会を増やしていけば数値は上がってくると思う。(星委員)

⇒わからないという項目をあえて作成しなかった。保護者は子供を通して評価するため子供との会話が生まれる。更に学校に対する見方が伺われるので、子供を通して上げていく余地があると分析している。(杉山校長)

(3) 学校支援活動について

① CSにおける1学期の活動報告

議長の指示により、幸田委員から、別紙資料に基づき1学期の活動報告がされた後、竹村コーディネーターよりクラブ活動の説明がされた。その後幸田委員より今後のボランティア募集に関しての意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。

- ・運営協議会でどういう手助けができるか、与進の子応援団についての見解をすりあわせする必要があると思うが、話し合っている時間が無い。(星委員)
- ・ボランティア活動に入る前に学習の目的・目標を明確にすることが大切である。押さえたい内容を共有できれば、もっとより良い支援ができると思う。(鷹森委員)

② 今後の活動

引き続き鷹森委員より今後の活動(ミシン・書き初め・おいも)についての説明がされ、委員より以下の発言があった。

- ・焼き芋にするかお芋パーティーにするかは、子供の実態と芋の収穫量を考慮して検討したい。(内田主幹)
- ・募集方法だが、活動内容だけでなく狙い・目的等の詳細を明記する必要がある。さくら連絡網を使用すれば紙面で募集するよりも効率的である。(内田主幹)
- ・活動ごとに募集をするのか、与進の子応援団として一斉に募集するのか？(影山教頭)

⇒求めるニーズによって募集対象が変わるので、まずは昨年度の登録を基に探していきたい。(鷹森委員)

- ・学校側としてはできるだけ早めに支援を要請することが大切である。(杉山校長)
- ・現在今後の支援活動がわかっているので、昔の遊び等、特別な活動は抜きにして、まずは全体にどういった活動があるかを知ってもらい、募集するのはどうか。(竹村コーディネーター)

⇒昨年度紙面で行った物と同じになってしまう。それに登録しなかった保護者は参加できないというデメリットがあったので、さくら連絡網で募集を行っていただけるならそれが良いと思う。何回も再募集をかけていけば保護者に知ってもらえる機会になる。(星委員)

その他報告事項等

- ・教頭から、次回会議は、令和6年12月13日（金）に開催され、運営協議会の前にアンケートの開封作業を行う旨の報告があった。